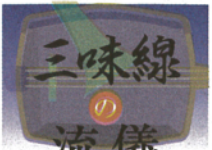


「伝燈」に欠かせぬ芸能

禅宗では、お釈迦様が、心の闇を照らす真理を燈ともしびにたとえた「伝燈でんとう」という言葉があるそうです。

以前テレビ番組で、姑しやくわが嫁に「かまどの火を決して絶やしてはならない」と言い聞かせていました。これは何百年も続いていっていることで、家風を繋つなげるためなのでしょう。芸能に携たづなわる者には、「伝燈」が大切です。私は「伝燈」を、新しい油、つまり創意工夫を注ぎ足し、灯心の手入れを続けることだと捉えています。



本條秀太郎

④ た歌謡を掘り起こし、保存、継承を考え、三味線音楽の曲を作っています。先人たちが培ったもの

のからの「申し渡し」こそが重要です。自然を取りこみ、季節に合わせた、「室礼しつらい」された空間に座ることで、多種多様な音楽、芸能が育まれてきました。しかし今の日本では、西洋音楽向けに比べ、邦楽や伝統芸能向けのホールが圧倒的に少ないのが残念です。

伝統芸能の潮来囃子うたばやしや櫓うらをこぐ音が聞こえる我が故郷、茨城県潮来市は丁度今頃「あやめ祭り」の最中。美しい水辺を始めとする野外の「舞台」も、「伝燈」を繋げるため、大切に使い続けていきたいものです。

(三味線演奏家・作曲家)

(次回から講談の流儀)